

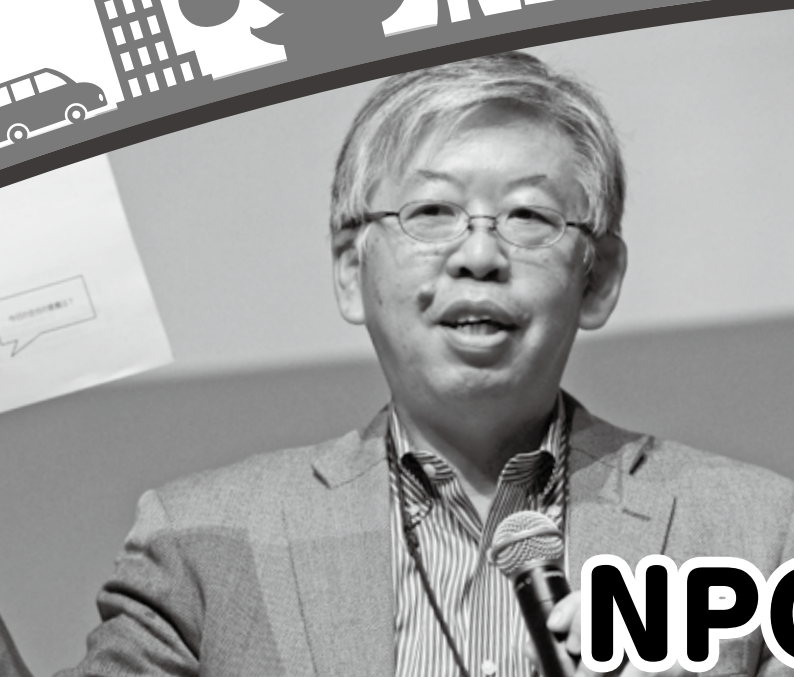
地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

NPOと市民をつなぐ機関誌

特集 NPO2.0の時代が やってくる!

- まんまるニュース
- Myストーリー NPO法人ヒューマンネット 川崎昭仁さん
- まんまるの新NPO紹介 NPO法人ACCESS
- お宝ざくざく地域を掘り起こせ! 篠ノ井・芋井
- まんまるイベントスケジュール

まはる



NPO法 成立20周年





NPO2.0の時代が やってくる！

1998年12月1日は、NPO法が施行された日です。

現在、全国には5万を超えるNPO法人があります。長野市内にも183のNPO法人があり、身近な地域から、世界、地球規模までさまざまな社会課題を解決しようと活動しています。その中心となる人や参加する人、手法もバラエティに富み、時代の流れと共に広がっています。

しかし、NPOの存在が知られるようになった現在でも、NPO法がどうして生まれたのかを知る人は少ないのではないのでしょうか。「そもそもNPO法が目指したものは？」。そして、20年。「日本の社会はどう変わったのか？」「これからどうしていきたいか？」

NPO法20周年の昨年、国内8カ所でNPO法について考える勉強会が開かれました。その一つとして、12月9日、長野市でも「NPO法成立20周年記念フォーラムin北信越」を長野県NPOセンターを中心とした実行委員会で開催し、約90人が参加しました。その内容からNPOのこれからを考えてみましょう。

特集

講演

NPO法の意義と価値 「いれからのNPOと市民社会をどうするか？」

認定NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会理事

▲講師▼松原 明さん

冒頭、松原さんは「NPO法の意義は日本の市民社会の仕組みを変える転機（鉄道のポイント）だった」と表現。官主導の社会から

市民主導の社会へと転換す

るきっかけとなったと言います。

そして、NPO法成立以前を「プレNPO」、成立から今までを「NPO1.0」、そして、これからの

時代を「NPO2.0」と位置づけました。

プレNPOの時代、日本社会は「公」と「私」の二元社会。市民の活動が広がっても、ボランティア団体には法人格がないのでさまざまな契約も、行政との協働もできず、市民主導で社会を変えることが難しい状況でした。そこで、まず法人格をもてる仕組みを目指しました。そして、松原さんは「NPO法人は無報酬ではなく、非営利概念」が大切で、さらには、人を集めるための情報公開も必須」と強調しました。

NPO1.0の時代。法人となったことで、団体の基盤ができ、市民がどんな社会を変えていけるようになりまし。その後、ソーシャルビジネスをはじめ企業型の組織運営「非営利企業モデル」が台頭。しかし、この手法だとサービ



松原明さん

1994年、NPO法立法を推進する「シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」を創設。1998年のNPO法や、2001年の認定NPO法人制度を創設。NPO法人会計基準策定。2011年のNPO法改正などを推進。

スを開発して社会課題を解決しますが、成果主義、市場主導になり、活動に関わる人が減っていきます。「私たちは、非営利概念」の伝え方を失敗した」と松原さんは言います。「今のやり方では、自己実現を求める人の増加というニーズ変化に十分対応できない」と。

NPO2.0の時代。「私たちはNPOの原点に還り、参加と協力を見直す必要がある。人々のニーズを捉え、あなたの自己実現が社会を変える」という方向へ転換しなければならぬ」と松原さん。これからのNPOの役割は、みんながヒーローになるよう、役割をつかって参加と協力をつくり出す専門家になること。「多くの人のパワーを交換できるリーダーとノウハウをつかって広めていくことがNPO法の最大の意味であり価値」とまとめました。

NPOをどう使うか

1995年
阪神淡路大震災。167万人のボランティアが活動。後にボランティア元年に

1998年2・3月
長野冬季オリンピックで3万6千人・パリオリンピックで2千人のボランティアが活躍

1998年3月
アートパラリンピック（長野）が市民の手で開催された

1998年12月
特定非営利活動法（NPO法）施行（成立は3月）

2000年
介護保険制度が施行され、介護の社会化が実現。同年成年後見制度施行

2001年
認定NPO法人制度創設

2003年
市民公益活動センター（現市民協働サポートセンター）開設

2005年
スペシャルオリンピックス冬季世界大会を長野で開催。1万人を超えるボランティアが参加



それぞれの地域から 富山・新潟・長野

セッション



<登壇者>

- 能登貴史さん**
NPO法人市民活動サポートセンターとやま代表理事
- 近藤尚仁さん**
NPO法人くびき野NPOサポートセンター事務局長
- 石本貴之さん**
認定NPO法人新潟NPO協会 理事・事務局長
- 香山篤美さん**
NPO法人夢空間松代の心とまちを育てる会理事長



能登

「NPOも食っていい」

「ボランティアなど社会貢献は余裕のある人しかできないのか?」という違和

北信越各地区から中間支援やまちづくりで活躍しているNPO関係者が登壇し、NPOのこれまで(NPO1.0)とこれから(NPO2.0)についてキーワードを出し合いました。



能登貴史さん

2001年NPO法人PCTOOLを設立、ITコンサルタントとして市民活動団体の情報化を支援。2006年から富山県内の市民活動団体のネットワーク組織NGO・NPOネットワークとやまの代表世話役を務めた。2011年から現職。

感があり、サラリーマンを辞めて富山に戻ったとき「NPOで食っていい」と宣言しました。東京から帰って「地域にはあまりにも情報がない」と感じ、支援のNPOを始めて今が



近藤尚仁さん

2005年からNPO法人くびき野NPOサポートセンターに勤務。以来、地域新聞の紙面上で地元NPOの情報や地域型市民ファンド(現にいがたNPO基金)の創設等を担当。

石本 20年前は中学生でした。社会起業家ブームだった大学生時代、環境活動のサー

「生き方の新たな選択」

はできたと感じています。NPOのミッションへの道筋

香山

「思いを形に」

クルに入ってNPOをつくり、滋賀県彦根市のご当地キャラ「ひこにゃん」のタワーを走らせるという事業をやりました。そこからNPOに就職することを意識しました。うちのセンターにも毎年10人のインターンが来ます。社会で貢献する働き方がしたいと説明会でも人気があり、徐々にNPOに就職する人が増えていると感じます。

東京でボランティアを推進する青年奉仕協会に勤め、1975年に長野に帰ってきました。その頃はまだボランティア活動が主体で、長野市社会福祉協議会とボランティア活動を推進しました。地元松代では、100人に声をかけて「地

2006年 長野市で指定管理者制度導入

2008年 リーマンショック。年越し派遣村開設。格差社会の広がりが社会問題として認知された

2009年 長野市で都市内分権が開始し、住民自治協議会が32地区で立ち上がった

2010年7月 NPO法人会計基準策定

2011年3月 東日本大震災・長野県北部地震発生。岩手・宮城・福島県だけで、ボランティアがこの年95万7千人。各地でNPOが活躍した

2011年~2012年 長野県で、「新しい公共」推進事業「信州円卓会議」実施

2014年 神城断層地震、小谷村から長野市西北部にかけて多大な被害

2018年 NPO法20周年

NPO2.0へ!



石本貴之さん

2014年認定NPO法人新潟NPO協会入職。地域づくり人材育成、中山間地の集落点検、市民参画による子育て支援センターづくりなど、住民自治・協働を進めるための取り組みに関わる。



香山篤美さん

2000年NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト設立事務局長を務める。地元松代町では、NPO法人「夢空間松代のまちと心を育てる会」を立ち上げ、松代の歴史的文化的資源を活かしたまちづくりに取り組む。



能登
「地縁で支え合いながら地域で暮らす」

これまでNPO法人が支援の対象でした。でも、ひとつのNPOが頑張っても、以前の課題を解決できても、課題の根幹を解決することはできていません。昔は地域にあった支え合いが核家

元の宝を磨き上げよう」と夢空間を立ち上げました。私たちの継続的な文化の掘り起しで市民が自分たちの町に自信を持てるようになり、それを行政がバックアップするようになりました。市民・行政と一緒にすることで「思いを形に」することができたのは、NPO法があつてこそです。

近藤
「関わりの多様化」

行政からの委託でボランティアセンターを運営し、年間約500件のコーディネートをしていきます。調査でも、市民の7割は市民活動に興味があると答えています。働きながら市民活動したり、おもしろいと思つたことをやる人が増えていきます。所属しなくても続かなくてもゆるやかな関わり

族化個別化でなくなり、富山など地方に暮らす意味がなくなっています。私たちが地域と行政のクッション役となり、住民自身が地域を変えるために力を発揮することができたら、NPO・市民社会の未来は明るいと思います。いろんなことを混ぜて新しい地域自治の形をつくっていききたい！

石本
「私たちの存在意義を問いつける」

いろんな企業がNPOに向けて安く使えるサービス提供していることをみなさん知っているでしょうか。地方にいると知らないことが多いですが、それを使うことで効率化を図ることができ、より良い活動ができる点で「テクノロジーの活用」は大切です。また、SDGs（国連の持続開発目標）についても、企業が課題解決に目を向けています。到底財力では勝てませんが、2030年に

向けて自分たちの価値を示していくことが必要です。これからは成長因子となり、課題をネガティブに受け取らず一緒にワクワクしていきましよう！

香山
「グローバル+ローカル」

一つの団体ではなく、相互に力を結集していくことが大切です。企業、社会企業家、研究者、行政、ファンドなどの力を総結集しないと課題解決につながりません。女子力、こども力、高齢者力など年代を超えた住民パワーの集結も大切です。

そして、世界にはさまざまな課題があり、小地域でもグローバルな視点を持たないと立ち向かっていかれません。人口は減少しますが、ローカルでグローバルな全国的・全世界的ネットワークをもってこれからの社会をつくっていく。NPOはそのつなぎ役です。



参加者全員でセッション。「NPOに対するイメージは？」などあらかじめ用意された設問に答え、内山二郎さん（長野県長寿社会開発センター理事長）の進行で、一人一人の想いや考えを出し合いました！

プレNPOの時代から、脈々と受け継がれてきた市民活動の源泉である「参加」について、NPO自身が問い直す時期にきたと感じます。目の前の課題を解決することに力を注ぐあまり、地域の暮らしや社会全体の問題とのつながりが見えなくなつては、持続可能な社会は実現できません。多様な人たちがとつながり参加することで、さまざまな視点や視野を持ち、自由に楽しく活動するのがNPO。自分たちの団体はうまくいっていると感じている人も、20年という節目にこれまでを振り返り、これからのことを仲間と話し合ってみてはいかがでしょうか？



社会を変える

事業づくり

あなたの団体は事業をどう組み立てていますか？

昨年11月14日、NPOステップアップ講座「事業プログラムづくりのいろは」を実施しまし



た。「NPO活動の本質は、活動を通じて社会的な課題を人々に知らせ、理解を促すこと。そして解決へ向けて参加者を増し、社会を変えること」と山室秀俊講師（NPO法人長野県NPOセンター事務局長）は冒頭で話しました。

ワークでは、取り組むべき社会や地域の課題、自分たちの役割や強みを書き出し、団体のミッション（使命）を描き出します。

そのうえで、到達したい将来像（ビジョン）を明確にし、現状とのギャップを把握します。だから何をすべきかが、事業戦略を立てるポイントとなります。すると必然的に事業の必要性や優先順位が見えてきます。

参加者からは、「これまでの活動を整理して考えることができ、活動を見直すきっかけになった」との声が。

1月19日には、NPO法人CRファクトリーから講師を迎え、組織やコミュニティの組織運営を見つめ直す「コミュニティマネジメントいろはのい」を実施予定です。



昨年10月27日、NAGANO 若者フリースペースZ-Point^{ユースポイント}で、おでかけまんまる「これからの働き方について考えよう！」を開催しました。

自らの考え方で働き方が変わる!?

Z-Pointは、就職活動の支援や創業支援などを行っている場所です。NPO法人コミュニティビジネスネットワーク長野が運営しています。

当日は、会社員や個人事業主に加えて、高校生や大学生など14人が参加し、「就職とは？」「働くとは？」について話し合いました。

会社員を経て起業している参加者の「就職はバスに乗る。起業はバイクを運転する。見える景色もちがってくると思う」など、さまざまな意見が交わされました。

参加した長野西高等学校国際教養科3年・宮坂友菜さんから感想をもらいました。

私が参加したきっかけは友人からの「起業家にも会える」という誘いでした。私の周りには起業した人がいないので、「起業しても、きっと失敗する」と思いこ

んでいました。

しかし起業家や会社員と話をすることで「起業も就職も、それぞれ良い点、悪い点があること」を学びました。そして、起業が絶対失敗するわけではなくその人自身がどう考えるかで成功するか否かが決まってくると思えるようになりました。

これから、自分にあつた「働き方」を見つけていかれるかと思いました。



熱心に講義に耳を傾ける参加者



就職と起業の違いで議論白熱!

#07

My
ストーリー

NPO法人ヒューマンネットながの

川崎昭仁さん

真つ赤な車イスと金髪がトレードマークの川崎さん。幼い頃の病いが原因で重度の障がい者に。茅野市で年子の弟と育ちます。小学生の時に両親が離婚。引き取られた父からネグレクトを受け最終的に母と弟の元へ。「その頃は相当やんちゃをした」と笑います。ところがその後弟をバイク事故で失う悲劇が…。

卒業後、傷心の中、単身上京します。クラブやキャバレーの演奏で食いつないで半年。ある日、母が白血病だとわかり帰郷を決意します。それから3カ月。母が他界したのは川崎さん19才の夏でした。「明日から一人でどう生きればいいのか」と愕然とします。

そんな状況の中、霧ヶ峰養護園の原田正樹さん（現日本福祉大学教授）との出会いが人生を大きく変えます。当時ヘルパーは1日2時間週3回が限度でした。「1人1日のボランティアを30人集めれば、施設に入らず自由に音楽活動をして生きられる」と思いつきます。「このシステムを他の人のために共に尽力

します。

その後友人が所長を務める諏訪市障害者支援センターの職員を経て、結婚後2010年には現NPOの職員として長野市に移住しました。現在は理事をつとめながら、県社会福祉協議会で福祉現場のPR担当として各地で講演活動をしています。毎週末にはロックバンド「Steaming RED」として地域の音楽イベントにも出演。

活動を通して「誰もが自由に生きられる社会に」と訴える一方で「自

由を手に入れるために、義務を果たすことが必要」と苦言も呈しています。

を果たすことが必要」と苦言も呈しています。



プロフィール

かわさきあきひと 51才、妻とその祖母、5才の娘と市内で4人暮らし

団体情報

NPO法人 ヒューマンネットながの
〒380-0904 長野市鶴賀七瀬中町211-15
TEL: 026-268-0622

新

まんまるの!

NPO紹介

アクセス 特定非営利活動法人 ACCESS

理事長の富田博則さんは、障害者の相談支援をする中で「一人一人のニーズに応えることができない」と思い、法人設立を決意。12月からはグループホーム、ショートステイもオープンに至りました。そして「地域とともに歩む施設でありたい」と考え、地区の朝清掃に参加すると「障害のある皆さんと一緒に清掃をしてみたい」と近所の人から好感触が！ 会員も絶賛募集中です！

特定非営利活動法人 ACCESS
長野市川中島町今井 1529-6
電話番号 : 026-214-4411
<http://www.access-nagano.or.jp/>



12月にオープンしたグループホーム外観

小森の石土手を子どもたちに!

篠ノ井小森地区で、歴史ある石土手を守るため住民グループが熱く活動していること知り、現場を訪ねました。

その石土手は江戸時代の「戎の満水」と呼ばれる

大洪水を機に、松代藩が治水事業をした遺構です。平成13年に発見され、平成15年に「自分たちで守ろう!」と「小森の千曲川に架かる石土手を後世につなぐ会(平成27年NPO法人化)」が発足しました。

しかし保全するのは並大抵なことではありません! 年6回延べ150人の会員によって除草を行うことで、いつでも石土手に親しむことができます。ま

た土手の上にマレットゴルフ場を整備し、少しでも認知度を高めようとしています。

「なぜそこまで守りたいのですか」と代表の宮本八樹さんに聞いてみると、「自分が幼い頃のように、石土手を子ども達の遊び場にしたい」とのこと。会員の努力もあって、最近ではマレットゴルフ場の利用者が□コミで増えているそうです。また、近い距離で千曲川が一望できることから、写真愛好家の人気スポットにもなっています。ぜひ行ってみては?

※石土手の場所・篠ノ井東中学校から南東の千曲川沿い



会員がお金を出し合っで建てた看板

お宝 ザクザク 地域を掘りおこせ!



小学校にテニスコート?!

芋井小学校の校庭にテニスコートができて、誰でも借りられる! というチラシを見て、取材に行きました。

それは、同校の3年生5人が総合的な学習で作ったものでした。「芋井には大人も子どもも集まって遊べる場所がない」という課題に気づき、「何ができるだろう?」と考えた子どもたち。試行錯誤の末、校庭にテニスコートを作って貸し出そうということに。しかし、「どうやって作る? 大きさは? 材料は?」。

さっそく図書館でコートのサイズを調べ、校庭にラインを引くための準備をスタート! そして、夏の暑い最中、テープ状のラインを約3000本の釘を打って

固定し、やっと形になってきました。ネットがありません! そこで、「週刊長野」新聞紙面で募集したところ、県内のある高校のテニス部顧問の先生から申し出が。自分たちで木の杭を打ち込んで、無事ネットも張り終え、昨年9月26日に完成! 11月にはそのテニス部の高校生と一緒にテニスを楽しみました。

広報のため、自分たちで中心市街地のお店や施設にチラシをお願いして回りました。5人は予約を待ち望んでいます。

利用時間は土日祝の8時~日没まで、無料、メールにて申込み imotennis@gmail.com (平日のみ対応)



看板も自分たちで手作り



市民協働サポートセンター スケジュール

2019年

1月▶ 3月



タイトル	日時	会場 / 費用	内容	
NPO初歩講座 「きほんのき」	1月23日(水) 13:30-16:00 2月09日(土) 10:30-13:00 3月27日(水) 18:30-21:00	市民協働サポートセンター 300円 定員: 10人	「NPOってなあに?」法人を設立したいという人もまずはこの講座から始めましょう。毎回ゲストに、市内NPO法人を招いて生の声を聞いています。2月は土曜の午前中、3月は水曜夜の開催となります。	
NPOステップアップ講座 「コミュニティマネジメント いろはのい」	1月19日(土) 14:00-17:00	もんぜんぶら座 304 会議室 1,000円(1団体あたり) 定員: 20団体 (1団体2人以上参加)	最初は熱い想いで活動を始めても、メンバーの気持ちにズレが生じたり、リーダーだけが必死で頑張っている...ということはありませんか? 組織マネジメントのプロを講師に迎え、ワークショップを交えながら学びます。1団体2人以上での参加を推奨します。 講師: NPO法人CRファクトリー代表理事 呉 哲煥 (ごてつあき) さん	
NPOステップアップ講座 「これでいいの? イベントデザイン」	2月23日(土) 10:30-13:00	もんぜんぶら座 303 会議室 300円 定員: 20人	交流会や会議など、その先の成果につなぐための企画のデザイン手法を学ぶ講座です。「毎年同じ内容でマンネリ化している」など、日頃の企画づくりに悩んでいる人におすすめです! 講師: ファシリテーション・ラボ信州代表 河合 宗寛 (かわいむねひろ) さん	
NPO カフェ まんまる 	地域まんまる in 若槻 「長野の婚活最前線」	1月28日(月) 13:30-16:00	若槻公民館 無料 定員: 30人	各地区やグループ・個人で、婚活支援をしている皆さんが一堂に会しての情報交換会。お互いのスキルや成果を持ち寄って、今後の活動について考えます。
	NPOカフェまんまる 「里親カフェ in ながの」	2月13日(水) 13:30-15:30	もんぜんぶら座 304 会議室 無料 定員: 15人	内容/様々な事情により家庭で暮らすことのできない子ども達のために里親さんを増やしたい、里親さんや里子さんの味方を増やしたい。そんな想いに共感してくださるみなさんと一緒に、里親について知る場「里親カフェ」について考えます。 企画団体: 松代福祉寮
	NPOカフェまんまる 「ダイバーシティな暮らしとは? (仮)」	3月(未定)	もんぜんぶら座 (予定) 無料	国籍や年代、障害の有無などにかかわらず多様な暮らし方について考えます。 企画団体: ダイバーシティ農園
第9回ポップアップ知恵出し会議 「統一地方選挙間近! ~若者とナガノのミライを語ろう~」	2月18日(月) 18:00-20:30	パブリックスペース OPEN (長野市権堂 2300) 無料 定員: 30人	4月の統一地方選挙を目前に、若者の政治参画・地域活動への参画について考えます。公平な立場で選挙啓発に関わる大学生や若者のグループが事例発表。どうしたら若者の投票を促進し、政治や地域に関わりたくなるのか、知恵を出し合います。 ワークショップ司会: 清泉女学院大学講師 川北 泰伸さん	
第10回ポップアップ知恵出し会議 「シェアリングエコノミー(共有経済)って?」	3月1日(金) 13:30-16:00	もんぜんぶら座 304 会議室 無料 定員: 20人	「シェアリングエコノミー(共有経済)」について考えます。場所・乗り物・モノ・人・お金などの遊休資産をネット上のプラットフォームを介して個人間で貸借や売買、交換する新しい経済の動きのこと。家庭で食事を観光客に提供する「airKitchen」を立ち上げた学生起業家を東京から迎え知恵を出し合います。 ゲスト: 村瀬悠太さん(ZAZA株式会社)	



はココに! 機関誌まんまる設置場所募集!!

川中島の保健室

「学校に保健室があるように、地域の保健室があってもいいのでは?」と、元養護教諭の白澤章子さんが自宅を改装して作ったのが川中島の保健室です。

川中島四ツ屋の住宅街にあるごく普通のお宅ですが、一歩中に入ると10畳ほどのスペースに可動式書庫があり、白澤さんが集めた性教育に関する本がずらりとならんでいます。その横にはテーブルがあり、ほっとできる雰囲気。子育てに関すること、心やからだのことなど予約制で相談に乗ってくれるほか、近所の子どもたちがふらっと寄ることもあり、老若男女が訪れる場所です。

機関誌まんまるは地域の情報と一緒に壁に貼ってあります。月1回のお茶のみサロンに集まる人や欲しい人に手渡しているそうです。

長野市川中島町四ツ屋1315-12 TEL/FAX:026-284-8220

e-mail:white.shirasawa@nifty.com オープン時間は不定期(問い合わせを)



壁にはたくさんのチラシと機関誌まんまるが!

編集後記

NPO法ができた頃、私はNPOのNの字も知らず、ボランティアも無縁の生活を送っていました。その後、NPOの世界に足を踏み入れて15年くらいでしょうか。ポーツと生きていられない刺激的な日々を過ごしています。今年は何年になるか楽しみです。(チコ5才+●才)



発行 / 市民協働サポートセンター まんまる
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座 3F
e-mail : npo@nagano-shimin.net
ホームページ : http://nagano-shimin.net/